

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	千葉科学大学		設置者名	学校法人 加計学園				
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
薬学部	薬科学科	40人	中一種免(理科)	平成18年度				
			高一種免(理科)	平成18年度				
	動物生命薬科学科	40人	中一種免(理科)	平成20年度				
			高一種免(理科)	平成20年度				
危機管理 学部	危機管理システム学科	95人	高一種免(情報)	平成16年度	94人	3人	3人	0人
	動物・環境システム学科	60人	中一種免(理科)	平成21年度				
			高一種免(理科)	平成21年度				
入学定員合計		235人	合計		94人	3人	3人	人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成21年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成21年7月17日（金）

実地視察大学：千葉科学大学

実地視察委員：渋谷治美委員、宮崎英憲委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・ 2学部4学科で教員養成を行っている。
- ・ 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。

<講評>

- ・ 建学の精神の中に、教員養成に対する理念・構想を位置付けており、評価できる。
- ・ 教育実習の在り方について、平成18年7月の中央教育審議会答申を踏まえた運営がなされており、大いに評価できる。
- ・ 教職課程に関する事項の相談、助言者として、学校現場の経験者を専任教員として採用してほしい。
- ・ 学内体制などをより整備して教員養成の運営を行ってほしい。
- ・ 平成20年度の教職課程認定申請における留意事項を受け止め、教職課程担当者の理解を深めるよう努めてほしい。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・ 建学の理念である「ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、社会に貢献できる人材の養成」に基づき、時代の流れを見据え、新しい時代に貢献できる人材を世に送り出すと同時に、次世代を担う青少年の教育に携わる教員の養成を使命として認識している。特にグローバル化した国際社会・情報社会の中で、地球環境問題や安心・安全社会の構築等への対応が複雑・多様化した新しい時代に生きる若者を育てていく教員の養成のために、人間性の涵養、着実な学力の定着、逞しく生きる力の育成を大学の役割となると認識している。
- ・ “安心・安全”を確保するため、種々の組織や場面で実践的に危機管理ができる人材の育成を目指すとともに、幅広い知識はもとより、医療に対する倫理観や様々な生き物の生命の大切さを知る人間性の涵養に努めている。とくに地震・風水害、新型インフルエンザなど様々なリスク（危機）が発生している今日、危機管理能力のある教員の養成が社会的に求められていると考えている。

<講評>

- ・ 教員養成に対する理念・構想が明確化されている一方、それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程の一層の充実を図ってほしい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<状況>

- ・「教育相談」や「教育実習Ⅰ」など保護者対応に関する内容を含んだ科目を開設している。
- ・シラバスの様式が全学的に整っている。
- ・教員によって、成績評価の基準が異なっている。
- ・少人数制の授業を実施している。

<講評>

- ・シラバスの様式が整っていることは評価できる。
- ・教員によって、成績評価が異ならないよう、学則等を参考にしながら全体的に見直すこと。
- ・学校現場での実情を踏まえた内容を取り扱って欲しい。
(例えば、スクールサポーター制度を踏まえた内容を「教育心理学」で実施するなど)
- ・教職課程全てにおいて学習指導要領の内容が反映されるように工夫を図ってほしい。
- ・履修モデルの構築を図ってほしい。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・実習校の確保は、各教育委員会との連携により、確保している。
- ・各教育委員会と連携を図って、見学実習、本実習を市内の中学・高等学校で実施。
- ・教職専任教授の一人が、銚子市の教育委員長でもあり、実習の運営については円滑に機能している。
- ・教育実習の円滑な実施のため、大学と実習校とが連携を図っている。

<講評>

- ・教育委員会との連携を通じた実習校の確保・大学と実習校との連携による教育実習の実施などは、平成18年7月の中央教育審議会答申を踏まえており、大変評価できる。また、研究授業へ必ず大学教員が参画していることも評価できる。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・以下のボランティア活動を教職課程履修学生には、できる限り参加するよう指導し、参加の程度に応じて、総合演習や教育実習の時間数に加算している。
 - ①理科支援員：県教育委員会実施の理科支援員として、地域の小学校で活動
 - ②特別支援教育ボランティア：県教育委員会実施の特別支援フレッシュサポーターとして、地域の小学校で活動
 - ③防災教育ボランティア：危機管理学部開講の「ボランティア活動」の一環として、地域の小学校で紙芝居をとおした津波への備えについて話をする
 - ④市立高等学校からの委嘱により、理科の実習助手として、週1回勤務

<講評>

- ・各教育委員会と連携を図った取組は評価できる。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・初年次学生等にはガイダンスや個別指導を中心に、その後は実際に実習に行けるだけの力を身につけさせることを指導の中心とし、指導案作成、模擬授業等を複数の授業で行っている。
- ・履修希望者が少人数であるため、専任教員が教職に関する科目の授業の中で、教員の資質や教職についての個別指導を行っている。

<講評>

- ・学習支援センターや初年次学生に対する対応、学び直しの機会の提供など、教職指導の一層の充実を図ってほしい。
- ・大学として、教員としての適格がある学生を発見し、養成するなどの能動的な活動を行うなど、教員免許状取得希望者が増加するような取組を行って欲しい。
- ・キャリアセンター設備の充実（例えば、数年間の採用試験問題を置くなど）を図ってほしい。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・教職課程の質の向上や学生に対する責任ある教職指導のための組織的な取り組みを含めた教職指導体制は、全学的には、教職課程教員、課程認定学科の免許教科担当教員の代表者、教務課およびキャリアセンターで構成される「教職課程運営委員会」を組織して、教職指導に当たっている。
- ・学生指導など日常的な事項については基本的に教職課程教員が中心となって運営しているが、定期的に委員会を開催しカリキュラムや指導方法、教育実習、採用試験対策等について協議し質の向上に努めている。また全学的に周知すべき事項については、大学協議会において報告・協議している。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<状況>

- ・教職に関する科目の図書等の冊数は、2, 1 1 1冊となっている。
- ・コンピュータ等は、50台備えられている

<講評>

- ・教職関係の図書等の設置について、教員の研究室だけでなく、学生でも容易に手に取れるようなオープンな場所に設置すること。
- ・最新の学習指導要領及び理科教育に関する図書等を設置すること。
- ・大学として情報機器の充実を図ってほしい。